

## 焼町土器の炭素14年代と曆年較正

AMS Radiocarbon Ages and Calibrated Ages  
of the Yakemachi-type Pottery

小林謙一・今村峯雄・坂本稔

### はじめに

- ①測定対象資料と炭化物の状態
- ②炭化物の処理
- ③アルカリ溶液溶解物
- ④測定結果と曆年較正年代

### 【本文要旨】

今回、土器型式及び胎土分析両面から検討する焼町土器の年代的位置付けを検討するため、群馬県・長野県の焼町土器及び中期中葉土器について、AMSを用いた放射性炭素同位体比の測定を行った。

その結果、新巻土器・プレ焼町土器と呼ばれる古手のタイプについては、茅野市長峯遺跡の3例及び川原田遺跡の1例の較正曆年が、3370-2910calBCの年代に収斂しており、よくまとまっている。さらにまとまった年代を示す新巻タイプの3例は、共通する年代である3100-3090calBCを中心とする年代幅が含まれている可能性が高い。これは、これまでの測定データとあわせて考えると、新道式土器新期から藤内I式（新地平編年6-7期）の年代に共通する。

つぎに、典型的な焼町土器である川原田J4住の深鉢2例は、共通の測定値を示しており、較正曆年で3100-2900calBCの年代幅の中に含まれる。これらの土器は、勝坂2・3式（藤内II式～井戸尻III式）（新地平編年8-9期）に相当するが、勝坂3a式（新地平編年9a期）の年代に相当する可能性がある。

以上のように、新巻土器・焼町土器2つのタイプの土器群の年代について、概ね把握することができた。